

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 7月 24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493600039		
法人名	特定非営利活動法人 匠の家		
事業所名	ケアホーム匠		
所在地	広島県安芸高田市吉田町常友486番地 (電話) 0826-47-1013		
自己評価作成日	令和5年6月27日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3493600039-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年7月13日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者にはご自分の家に居るような気持ちで生活していただけるように、お茶碗や箸は皆同じではなく各自担当が選んだ物を使っていたり、布団も施設用ではなく、家で使われていた布団や毛布を使用している。そうすることで施設感をあまり感じさせず家庭的な雰囲気の中で安心して過ごしていただけるのではないかと考えている。また、地域の清掃活動にも参加し、地域の方々との交流も大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人全体の理念「誰でも集えるホームその人らしさを大切に明るい笑顔と挨拶」を念頭に職員同士の一体感を持って、「利用者第一」の考えで一つ一つのケアについて検討・討議を重ねて支援をしている。以前は連絡帳を活用していたが法人職員全員がビジネス向けメッセージ共有アプリを活用し、同法人のグループホームと小規模多機能事業所の職員間で適時個々の利用者の情報共有ができ、連携を図ることで法人全体でケアするという姿勢で支援を行っている。利用者は同建物内のグループホームと小規模多機能事業所を自由に行き来でき、職員の見守り体制を整えている。また理学療法士によるリハビリメニューに取り組んでおり、利用者が重度化となっている状況の中に環境整備や機能低下しないよう細かく指示や助言を受けてケアを行っている。地域の自治会に入っており、地域の清掃活動をしているが、コロナ緩和となり今まで地域住民の参加を控えていた秋祭りや八朔祭りなどの行事を再開することで当事業所が地域へ発信できる役割となれるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目（ さくら ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所玄関正面や事務所に理念を掲げ朝礼で唱和する事で、職員の意識も高まり、電話対応やご近所間でも気持ちの良い挨拶を心がけている。	開設時に職員で話し合っって策定した法人理念と職員間で毎年の年間目標を決定し、朝礼時に唱和したり、ケア時に確認できるよう事業所内に掲示している。職員独自の個別目標も作成し、4か月ごとに自己評価と管理者との面談にて振り返りの機会を設けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の一斉掃除に努めて参加している。自治会の回覧板も回してもらい、事業所行事の際には、地域に声掛けするように努めている。コロナの緩和もあり隣のお店に利用者や買い物にも出かけ、八朔狩りの後は講中に配ったり、近所の方に野菜を頂いている。今年度は八朔の販売も行った。	地域の自治会に入っており、地域の情報を得ている。町内の行事は掃除のみでコロナ禍前は施設発信で秋祭り行事や八朔狩りに家族や地域の方を交えてマイクロバスで行っていた。新型コロナウイルス感染症が5類となり、今後は地域を巻き込んで行う行事を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度も吉田高校の福祉専攻科に行きグループホームの紹介や説明に行かせていただく予定。コロナ前まで行事の中で認知症相談など行っていたのでそれも再開させたい。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ緩和後は2ヶ月に1度の運営推進会議は定期的に行っている。面会緩和や拘束についても議題に挙げ意見を反映させている。	家族の参加をはじめ、市内各地の代表者、市保険医療課、地域包括支援センターをメンバーとしている。同市の感染状況を踏まえて実開催としており、開催後は全家族に議事録を郵送し、職員にも主な議題について管理者から情報提供を行っている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	行政担当者とは頻繁に相談させていただき運営推進会議には毎回出席いただいている。事務手続きの際には、窓口へ行きコミュニケーションをとるよう心がけている。また災害の時には市から安否確認をこまめにいただいている。	管理者が運営推進会議や窓口へ行って行政担当者に報告したり、度々相談し情報共有できている。市主催の研修会にも参加するようにしている。社会福祉協議会より地域で困っている方の相談があれば法人全体で対応している。	

自己評価	外部評価	項目（ さくら ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入所時や退院時には身体拘束はしない旨をご家族や病院へ伝えた承の上で入所していただいている。車椅子のかたで自力歩行は出来ないが車椅子での自走が出来る方には安全ベルト使用で自走を促している。	利用者の状況を踏まえて部署会議で検討し拘束の意味とケア方法を確認している。新人職員の指導では基本的な身体拘束については部署会議で説明し、個別の利用者についてはマンツーマンでケア時に一つひとつ確認しながら説明して指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	不適切なケアとして今年は言葉遣いについて強化している。利用者に対する言葉遣いはもちろんだが職員同士についてもお互い注意し合える中になろうと話をした。また小さくてもアザや傷を発見した場合は気をつけましょうで済ませず検証すること、職員同士注意しあえる中になろうと努力をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	主に管理者やチーフを通して、成年後見制度等必要と思われる利用者に関しては、早めに話をするように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時には十分な説明を行い、理解・納得された上で契約していただいている。改定等の際には、その都度文書と口頭にて説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議を行った月には家族にも資料を郵送している。運営推進会議メンバーには意見・感想をいただくことはあるが運営に関して家族からの意見をいただいたことはない。	家族には直接電話や来所時に意向を聞いている。家族全体に伝えたいことがあれば毎月の広報誌に記載し、個別の家族に対しては担当者が各自記載している。利用者に対しては普段のケアの会話から聞き取っている。検食の時には利用者の意見を聴取して記載するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目（ さくら ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回の職員会議やグループホーム会議では、皆が平等に意見が言えるよう1人づつ発言してもらうようにしている。また、質問や意見が言いやすい雰囲気作りは心がけている。</p>	<p>月1回の部署会議には全職員が参加し、意見を反映する機会を設けている。行事ごとに担当者を決め、管理者と相談し、物品購入や行事計画などの役割分担を行っている。代表者は部署会議に参加していないがビジネス向けメッセージ共有アプリで情報共有しており、代表者と直接相談できる関係を築いている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>子育て世代の職員が多いため、勤務時間や夜勤の曜日等の融通をしたり、急な休みには職員同士協力し合っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>新人には教育係をつけ、マンツーマンでOJTによる指導し、終業後には振り返りを行っている。また、新年度のは個々の目標をたて3ヶ月ごとに振り返り見直しを行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>コロナ禍のため直接の交流は難しいが、ZOOM研修には参加した。同業者の知人、友人とSNS等で交流を図っている。情報を知り得る事で知らないことを学び質の向上を目指している。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>本人さんが自ら入所を希望されるケースは少なくご家族が決められることが多い。そのため入所時は不安も多く帰宅願望や不穏状態になられることも多い為新規の方には寄り添う時間を多くとり本人さんから知り得た情報はラインワークスで共有している。</p>		

自己評価	外部評価	項目（ さくら ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>面会できるようにはなってきたが入所時はご家族も利用者も不安が大きいため家族とLINEを繋げて動画や写真を送ったり担当者から日頃の様子を電話でお伝えし安心していただけるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>小規模多機能を利用されながらグループホーム入所を待っておられる方も多。その方に関しては「その時」の見極めがしやすい。グループホーム職員と小規模家族も顔を合わせることも多い為安心して入所していただけているのではないかと感じている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>利用者の出来る事、出来ないことを決めつけずまずは挑戦してみてもから見極め、ケアプランに組み込むことで、職員が同じ対応できるようにしている。また、匠は施設感をなるべくなくすため制服は作らず、家庭的な雰囲気を大切にしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>お薬の処方等は極力お願いし、受診対応させていただいた際にはこまめに報告している。利用者から家族に会いたいと希望があったときには連絡を取りテレビ電話をしてもらいできるだけご家族も巻き込んで共に利用者を支援している。毎月のたよりでも担当から手書きで様子を伝えている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>コロナ禍でご家族以外の方との関係継続が難しかったが、緩和後は行きつけの美容院を再開したり、利用者との会話の中で「家が心配」「墓参りに行ってない」などの話があった時にはドライブに行ったりお墓参りに職員が同行したりしている。</p>	<p>コロナ緩和後は、近所の方が面会に来たり、馴染みの美容院や命日の墓参りに行けるようになった。電話は希望があればいつでも取り次いでいる。コロナ禍以前に行われていた通院時の家族との外食や、ホームでの家族の宿泊なども今後再開を調整している。</p>	

自己評価	外部評価	項目（ さくら ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	作業する際、利用者同士の助け合いが出来るよう席を配慮したり、話が弾むように職員が間に入っている。折り合いが悪く同じユニットで生活するのが困難と察した場合はユニットの変更をしたこともある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後の利用者のご家族に運営推進会議の委員として残って頂き助言を頂いている。また、転院された利用者家族ともLINEで状況をやりとりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望を聞くことが困難な場合はご家族から意見をいただいたり、誕生日には担当者が本人に欲しいもの、したいことを伺い喜んでいただけることを計画している。	利用開始時の基本情報や普段の会話の中やケア記録で聞き取って情報収集したものを担当者がセンター方式を活用しまとめていく。更新したら部署会議やビジネス向けメッセージ共有アプリで情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時やご家族からの聞き取り、本人さんとの会話の中から情報収集している。それをケアプランにも反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝バイタルチェックを行い、利用者が戸惑われる事のないようケアプランに沿って統一したケアをしている。1人ひとりの体力等考慮しPTさんにリハビリメニューを作成していただき週2～3回運動出来るようにしている。また、個々のケアプランに沿って1日の振り返りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目（ さくら ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月のグループホーム会議で、個々のカンファレンスをおこない、ケース担当を中心に3か月に1度プランのモニタリング見直しをしている。またご家族からの要望や意見も聞くようにしている。</p>	<p>担当職員がプラン原案を作成し、部署会議でカンファレンスを実施している。日々の日誌でプランチェックを行い、3か月毎にモニタリング評価している。プラン作成に関しては普段から医師や理学療法士などの多職種との連携内容を踏まえてプランに反映している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の記録の中に、介護計画に関するチェック欄がある。合わせてモニタリングも行えるようになっており、次の計画につなげている。新しい情報や注意点等については、ラインワークス等で速やかに共有ができるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者の出来る事、出来ないことを決めつけずまずは挑戦してみてもいい、ケアプランに組み込むことで、職員が同じ対応できるようにしている。また、匠は施設感をなるべくなくすため制服は作らず、家庭的な雰囲気を大切にしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍でボランティアの受け入れや法話会を中止していたが7月には法話会再開予定。散髪も外部から来ていただいている。これからは以前のように地域の行事に参加したり、ボランティア受け入れもしていきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご家族にも協力いただきながら、できるかぎり入所前のかかりつけ医に受診している。終末期に近い利用者には個人病院に転院していただくこともある。歯科や眼科に関してはほとんど入所前に行かれていたところに対応している。</p>	<p>かかりつけ医はできるだけ継続できるように利用開始時に説明している。協力病院は総合病院の為、訪問診療をしていないので訪問診療が必要な場合は個人病院を紹介している。受診対応は基本家族が行っているが家族だけでは対応困難な場合は職員が対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目（ さくら ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護とは情報の共有に努め、利用者に何かあればすぐに電話連絡が取れる体制となっている。胃瘻や導尿対応が必要な利用者には、小規模看護師やパート看護師が対応し、補えない時には喀痰吸引資格者が対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内の地域連携室とも協働し、リハビリの進み具合や本人さんの状態を把握し、認知症が進行しないためにも早期退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時の重要事項の説明の中で重度化に向けた方針等の説明も合わせて行っている。看取りを迎える場合には早めに家族とのカンファレンスを行い、意思の確認と今後の方針等を確認している。それにより主治医を往診可能な医師に変更していただくこともある。	看取り介護を行っている。医師からの情報や状況変化があれば家族に度々報告し、家族の心の準備ができるよう配慮している。看取り後は事業所内で振り返りを行い、爪が伸びていたらその場で切る、先送りにさせない、口を乾燥させない等の日々のケアに活かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	なかなか急変等の対応の訓練はできていないが、いつもと違うという感覚は大事にするよう指導している。看護師や先輩職員が対応しているのを見て学び、不安なことや対応方法については会議で共有している。チーフ、看護師は連絡を受け適切な指示を出せるよう日頃の様子も把握している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	訓練時には新人職員が対応できるようにして、誰もが1度は経験するようにしている。水害時を想定して2階への避難方法も実践した。地域の協力体制については昨年初めて分団の消防団長を訪ね訓練の視察をしていただき、今年度の消防訓練にも消防隊員のかたに来ていただき避難の手伝い、意見をいただいた。	年2回夜間と日中を想定して消防訓練と災害訓練を同時に実施している。ハザードマップでは水害の災害区域として垂直避難の指示があり、実際に2階への避難方法を実践したこともある。数年前の災害では道路が遮断して職員が行き来できなかったが、今後の災害時には地域の消防団の協力を得られることになった。	

自己評価	外部評価	項目 (さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	今年言葉遣いについて強化している。利用者に対する言葉遣いはもちろんだが職員同士についてもお互い注意し合える中になれるよう話をした。実際家族から言葉遣いについて注意されたこともある。	トイレへの誘導は周囲に配慮しながら声かけしている。各居室にトイレを設置しており、居室のドアも閉めて排泄するよう促している。月1回の部署会議で不適切なケアについて勉強する時間を設けており、普段のケアで気になったことがあれば管理者を中心に注意し合える取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	なるべく希望に添うように心がけてはいる。水分補給時の飲み物、入浴時の服の準備、朝食時パンかご飯かの選択などをしてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ケア内容や日々の生活の中での流れには合わせてもらっているが、拒否や体調がすぐれない時には、目をずらしたり、時間を変えたりして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	いままで白髪染めをこまめにされていた方は職員が入浴前にさせていただいている。化粧水をこまめに塗られる方や毎日お化粧をされる方もおられ化粧水やお化粧道具が切れそうなときは担当者がお小遣いから購入している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員も一緒に食事をしていたがコロナ禍のため別々に食べるよう対策している。職員の中に食事係がおり、畑でできた野菜を使うメニューを考え、おかず分けや配膳、下膳できる方にはしてもらい、介助で食べられる方にはしっかり声かけをしながら楽しく食べてもらえるようにしている。	週3日は田舎料理を届けてもらい提供したり、週1回手作りの日として食材の購入から調理まで行っている。事業所内のテラスに鉄板があり、お好み焼きや焼き鳥など作る場所を見てもらいながら匂いも楽しめるなど普段とは別に楽しめるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目（ さくら ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	毎日の摂取量をチェックし、変化を共 有するようにしている。合わせて本人が 摂取しやすい形態（ゼリー食、ミキサー 食）のを提供し食欲が低下されている方 には、食事時間にこだわらず状態が良い ときに食べてもらったり、お小遣いから 食べやすい物を購入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医に助言をもらいながら、歯間ブ ラシや吸引ハブラシを使用したりと個々 に合わせた口腔ケアを毎食後行ってい る。自分でできる方のほうが見落としが ちになるので気をつけたい。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	全介助の方でも一日に一回はトイレに 座って頂くようなプランを立て実施した り、排泄チェック表に記入し個々のパ ターンをつかむことで失敗やパット等 の使用を減らすよう本人にあった誘導時 間に行っている。	排泄チェック表にて個々の排泄状況や傾 向、パターンを把握している。それによ り排泄の失敗やパット使用の減少につな がった事例がある。改善事例にこだわら ず、本人の負担が生じる可能性があるも のに関して常に利用者目線で部署会議で 検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日10時にヨーグルトや牛乳を提供 し、自然排便を促している。合わせて排 泄チェック表により排便のチェックをお こない必要ならば下剤を使用したりサイ クル等のリハビリでしっかり動いてもら い、便秘にならないように気をつけてい る。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	週に2、3回は入れるようにしている。好 きなタイミングに合わせるの難しいこ とが多いが、午前が良いか午後が良いか は希望を聞くようにしている。拒否が強 いときは後日にしたり、個浴で対応した り、清拭のみに変更し対応している。	利用者の状況や希望に応じて個人浴槽と ミスト浴槽で入浴している。ミスト浴槽 は3年前に導入し、職員が実際に体験し た。入浴は利用者の気分によって時間を ずらしたり、介助者を同性に交代するな ど柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項目（ さくら ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の希望や状態により、休んでもらう時間は個人差がある。TVを見たい方にはゆっくりする時間をとったり、眠れない方は一緒に事務所で過ごしたりと、その方のペースに合わせて就寝していただいている。昼寝が必要な方は夜間不眠につながらないよう時間を見て休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬や飲み忘れ等ない様に、服薬に関してはセットする人、チェックする人、与薬する人と3段階のチェック体制を取っている。日頃の利用者状態を主治医に伝え減薬にも努め、変更等あったときはラインワークスで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割があることでやりがいを持てる方にはプランに盛り込み支援している。利用者同士の助け合いも大切に、あまり職員が率先しないで見守るようにしている。月に1回担当職員を決め、合同でレクリエーションの日を作り気分転換できるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望があれば可能な限り、散歩や買い物に出かけている。天気の良い日には外の風に当たれるようにテラスでお茶を飲んだりした。コロナ禍でもできるお花見ドライブや八朔狩りも計画し行った。	コロナ禍では利用者と職員の関わりのみでコロナ緩和後は外出の希望があればホーム周辺を散歩したり、買い物ができるようにしている。利用者から希望があれば検討し調整している。最近では夫の命日に墓参りに出かけたり、馴染みの美容室へ散髪に行くようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在ご自分で管理されている方はおられない。自分のお金があるか聞かれたときにはご家族から預かり金庫で保管していることを伝え、何か欲しい物があるのかお聞きするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目（ さくら ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望あるときは対応している。現在お手紙を書かれる方が1人いらっしゃるので職員が切手を貼り出している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室で過ごされることが多い利用者さんの部屋には担当職員が季節のお花を飾ったりと季節感が感じられように工夫している。	同じ建物内にある小規模多機能とグループホーム内を自由に行き来できるようになっている。テーブル配置のレイアウトは利用者同士の関係やケア状況を部署会議で検討しレイアウトを変更している。テーブルや椅子の高さなどは理学療法士に確認し、高さ調整や足踏み台などで環境調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自室で新聞を読んだり、ソファでくつろいだり、思い思いに過ごしておられる。デイサービスを利用されていた方で落ち着きがないと言われていた方でも自室が出来たことで落ち着かれたケースもあった。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自室での食事を希望される方もおられ臨機応変に対応している。なじみの空間作りで、使い慣れた物を持参頂くようお願いするが、新品を持ってこられる方が多いような気がする。長い時間を自室で過ごされる方は、その方の好みで色々と工夫されている。	持参するものに制限はなく、利用者の状況によっては畳部屋やギャッジベッドなど柔軟に対応している。胃ろうの方に対して居室にいる時間が多いので居室内で楽しめるようレイアウトを工夫したり、寝にくいという方に照明を白色系から暖色系に変えたりなど工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室は本人の状態に合わせて家具の配置を決めている。そうすることで自力で着替えたりトイレに行ったりが可能になっている方がいる。		

V アウトカム項目(さくら) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所玄関正面や事務所に理念を掲げ朝礼で唱和する事で、職員の意識も高まり、電話対応やご近所間でも気持ちの良い挨拶を心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の一斉掃除に努めて参加している。自治会の回覧板も回してもらい、事業所行事の際には、地域に声掛けするように努めている。コロナの緩和もあり隣のお店に利用者と買い物にも出かけ、八朔狩りの後は講中に配ったり、近所の方に野菜を頂いている。今年度は八朔の販売も行った。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度も吉田高校の福祉専攻科に行きグループホームの紹介や説明に行かせていただく予定。コロナ前まで行事の中で認知症相談など行っていたのでそれも再開させたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ緩和後は2ヶ月に1度の運営推進会議は定期的に行っている。面会緩和や拘束についても議題に挙げ意見を反映させている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	行政担当者とは頻繁に相談させていただき運営推進会議には毎回出席いただいている。事務手続きの際には、窓口へ行きコミュニケーションをとるように心がけている。また災害の時には市から安否確認をこまめにいただいている。		

自己評価	外部評価	項目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入所時や退院時には身体拘束はしない旨をご家族や病院へ伝えた承の上で入所していただいている。車椅子のかたで自力歩行は出来ないが車椅子での自走が出来る方には安全ベルト使用で自走を促している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	不適切なケアとして今年は言葉遣いについて強化している。利用者に対する言葉遣いはもちろんだが職員同士についてもお互い注意し合える中になろうと話した。また小さくてもアザや傷を発見した場合は気をつけましょうで済ませず検証すること、職員同士注意しあえる中になろうと努力をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	主に管理者やチーフを通して、成年後見制度等必要と思われる利用者に関しては、早めに話をするように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時には十分な説明を行い、理解・納得された上で契約していただいている。改定等の際には、その都度文書と口頭にて説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議を行った月には家族にも資料を郵送している。運営推進会議メンバーには意見・感想をいただくことはあるが運営に関して家族からの意見をいただいたことはない。		

自己評価	外部評価	項目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会議やグループホーム会議では、皆が平等に意見が言えるよう1人ずつ発言してもらうようにしている。また、質問や意見が言いやすい雰囲気作りは心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	子育て世代の職員が多いため、勤務時間や夜勤の曜日等の融通をしたり、急な休みには職員同士協力し合っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人には教育係をつけ、マンツーマンでOJTによる指導し、終業後には振り返りを行っている。また、新年度のは個々の目標をたて3ヶ月ごとに振り返り見直しを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍のため直接の交流は難しいが、ZOOM研修には参加した。同業者の知人、友人とSNS等で交流を図っている。情報を知り得る事で知らないことを学び質の向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人さんが自ら入所を希望されるケースは少なくご家族が決められることが多い。そのため入所時は不安も多く帰宅願望や不穏状態になられることも多い為新規の方には寄り添う時間を多くとり本人さんから知り得た情報はラインワークスで共有している。		

自己評価	外部評価	項目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>面会できるようにはなってきたが入所時はご家族も利用者も不安が大きいため家族とLINEを繋げて動画や写真を送ったり担当者から日頃の様子を電話でお伝えし安心していただけるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>小規模多機能を利用されながらグループホーム入所を待っておられる方も多し。その方に関しては「その時」の見極めがしやすい。グループホーム職員と小規模家族も顔を合わせることも多い為安心して入所していただいているのではないかと感じている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>利用者の出来る事、出来ないことを決めつけずまずは挑戦してみたら見極め、ケアプランに組み込むことで、職員が同じ対応できるようにしている。また、匠は施設感をなるべくなくすため制服は作らず、家庭的な雰囲気を大切にしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>お薬の処方等は極力お願いし、受診対応させていただいた際にはこまめに報告している。利用者から家族に会いたいと希望があったときには連絡を取りテレビ電話をしてもらいできるだけご家族も巻き込んで共に利用者を支援している。毎月のたよりでも担当から手書きで様子を伝えている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>コロナ禍でご家族以外の方との関係継続が難しかったが、緩和後は行きつけの美容院を再開したり、利用者との会話の中で「家が心配」「墓参りに行っていない」などの話があった時にはドライブに行ったりお墓参りに職員が同行したりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	作業する際、利用者同士の助け合いが出来るよう席を配慮したり、話が弾むように職員が間に入っている。折り合いが悪く同じユニットで生活するのが困難と察した場合はユニットの変更をしたこともある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後の利用者のご家族に運営推進会議の委員として残って頂き助言を頂いている。また、転院された利用者家族ともLINEで状況をやりとりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望を聞くことが困難な場合はご家族から意見をいただいたり、誕生日には担当者が本人に欲しいもの、したいことを伺い喜んでいただけることを計画している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時やご家族からの聞き取り、本人さんとの会話の中から情報収集している。それをケアプランにも反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝バイタルチェックを行い、利用者が戸惑われる事のないようケアプランに沿って統一したケアをしている。1人ひとりの体力等考慮しPTさんにリハビリメニューを作成していただき週2~3回運動出来るようにしている。また、個々のケアプランに沿って1日の振り返りをしている。		

自己評価	外部評価	項目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月のグループホーム会議で、個々のカンファレンスをおこない、ケース担当を中心に3か月に1度プランのモニタリング見直しをしている。またご家族からの要望や意見も聞くようにしている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の記録の中に、介護計画に関するチェック欄がある。合わせてモニタリングも行えるようになっており、次の計画につなげている。新しい情報や注意点等については、ラインワークス等で速やかに共有ができるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者の出来る事、出来ないことを決めつけずまずは挑戦してみても見極め、ケアプランに組み込むことで、職員が同じ対応できるようにしている。また、匠は施設感をなるべくなくすため制服は作らず、家庭的な雰囲気を大切にしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍でボランティアの受け入れや法話会を中止していたが7月には法話会再開予定。散髪も外部から来ていただいている。これからは以前のように地域の行事に参加したり、ボランティア受け入れもしていきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご家族にも協力いただきながら、できるかぎり入所前のかかりつけ医に受診している。終末期に近い利用者には個人病院に転院していただくこともある。歯科や眼科に関してはほとんど入所前に行かれていたところに対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護とは情報の共有に努め、利用者に何かあればすぐに電話連絡が取れる体制となっている。胃瘻や導尿対応が必要な利用者には、小規模看護師やパート看護師が対応し、補えない時には喀痰吸引資格者が対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内の地域連携室とも協働し、リハビリの進み具合や本人さんの状態を把握し、認知症が進行しないためにも早期退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時の重要事項の説明の中で重度化に向けた方針等の説明も合わせて行っている。看取りを迎える場合には早めに家族とのカンファレンスを行い、意思の確認と今後の方針等を確認している。それにより主治医を往診可能な医師に変更していただくこともある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	なかなか急変等の対応の訓練はできていないが、いつもと違うという感覚は大事にするよう指導している。看護師や先輩職員が対応しているのを見て学び、不安なことや対応方法については会議で共有している。チーフ、看護師は連絡を受け適切な指示を出せるよう日頃の様子も把握している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	訓練時には新人職員が対応できるようにして、誰もが1度は経験するようにしている。水害時を想定して2階への避難方法も実践した。地域の協力体制については昨年初めて分団の消防団長を訪ね訓練の視察をしていただき、今年度の消防訓練にも消防隊員のかたに来ていただき避難の手伝い、意見をいただいた。		

自己評価	外部評価	項目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	今年言葉遣いについて強化している。利用者に対する言葉遣いはもちろんだが職員同士についてもお互い注意し合える中になれるよう話をした。実際家族から言葉遣いについて注意されたこともある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	なるべく希望に添うように心がけてはいる。水分補給時の飲み物、入浴時の服の準備、朝食時パンかご飯かの選択などをしてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ケア内容や日々の生活の中での流れには合わせてもらっているが、拒否や体調がすぐれない時には、日をずらしたり、時間を変えたりして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	いままで白髪染めをこまめにされていた方は職員が入浴前にさせていただいている。化粧水をこまめに塗られる方や毎日お化粧をされる方もおられ化粧水やお化粧道具が切れそうなときは担当者がお小遣いから購入している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員も一緒に食事をしていたがコロナ禍のため別々に食べるよう対策している。職員の中に食事係がおり、畑でできた野菜を使うメニューを考え、おかず分けや配膳、下膳できる方にはしてもらい、介助で食べられる方にはしっかり声かけをしながら楽しく食べてもらえるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	毎日の摂取量をチェックし、変化を共 有するようにしている。合わせて本人が 摂取しやすい形態(ゼリー食、ミキサー 食)のを提供し食欲が低下されている方 には、食事時間にこだわらず状態が良 いときに食べてもらったり、お小遣いから 食べやすい物を購入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医に助言をもらいながら、歯間ブ ラシや吸引ハブラシを使用したりと個々 に合わせた口腔ケアを毎食後行ってい る。自分でできる方のほうが見落としが ちになるので気をつけたい。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	全介助の方でも一日に一回はトイレに 座って頂くようなプランを立て実施し たり、排泄チェック表に記入し個々のパ ターンをつかむことで失敗やパット等 の使用を減らすよう本人にあった誘導時 間に行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日10時にヨーグルトや牛乳を提供 し、自然排便を促している。合わせて排 泄チェック表により排便のチェックをお こない必要ならば下剤を使用したりサイ クル等のリハビリでしっかり動いてもら い、便秘にならないように気をつけてい る。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	週に2.3回は入れるようにしている。好 きなタイミングに合わせるの難しいこ とが多いが、午前が良いか午後が良いか は希望を聞くようにしている。拒否が強 いときは後日にしたり、個浴で対応し たり、清拭のみに変更し対応している。		

自己評価	外部評価	項目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の希望や状態により、休んでもらう時間は個人差がある。TVを見たい方にはゆっくりする時間をとったり、眠れない方は一緒に事務所で過ごしたりと、その方のペースに合わせて就寝していただいている。昼寝が必要な方は夜間不眠につながらないように時間を見て休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬や飲み忘れ等ない様に、服薬に関してはセットする人、チェックする人、与薬する人と3段階のチェック体制を取っている。日頃の利用者状態を主治医に伝え減薬にも努め、変更等あったときはラインワークスで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割があることでやりがいを持てる方にはプランに盛り込み支援している。利用者同士の助け合いも大切に、あまり職員が率先しないで見守るようにしている。月に1回担当職員を決め、合同でレクリエーションの日を作り気分転換できるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望があれば可能な限り、散歩や買い物に出かけている。天気の良い日には外の風に当たれるようにテラスでお茶を飲んだりした。コロナ禍でもできるお花見ドライブや八朔狩りも計画し行った。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在ご自分で管理されている方はおられない。自分のお金があるか聞かれたときにはご家族から預かり金庫で保管していることを伝え、何か欲しい物があるのかお聞きするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望あるときは対応している。現在お手紙を書かれる方が1人いらっしゃるので職員が切手を貼り出している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室で過ごされることが多い利用者さんの部屋には担当職員が季節のお花を飾ったりと季節感が感じられように工夫している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>自室で新聞を読んだり、ソファでくつろいだり、思い思いに過ごしておられる。デイサービスを利用されていた方で落ち着きがないと言われていた方でも自室が出来たことで落ち着かれたケースもあった。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自室での食事を希望される方もおられ臨機応変に対応している。なじみの空間作りで、使い慣れた物を持参頂くようお願いするが、新品を持ってこられる方が多いような気がする。長い時間を自室で過ごされる方は、その方の好みで色々と工夫されている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>各居室は本人の状態に合わせて家具の配置を決めている。そうすることで自力で着替えたりトイレに行ったりが可能になっている方がいる。</p>		

V アウトカム項目(あやめ) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ケアホーム匠

作成日 令和 5年 8月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍で地域や家族との関係が薄れていた。	行事を再開していく。	感染予防を心がけながら地域、家族と行う行事を再開する。	1年
2	10	運営推進会議の資料は家族にも郵送しているが意見をいただけるようにしていない。	家族の意見を聞き運営に反映する事が出来る。	1年に1回はご家族から意見をいただけるように書面をお送りするか、家族会で意見交換する場を設ける。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。